

3年生を対象に「地域学」がスタート、1次産業学ぶ 広尾

2024/05/27 20:00



小田さん（右）から地域の酪農の特色について学ぶ広尾高生

【広尾】広尾高校（柴山真純校長）は今年度、3年生を対象に「広尾地域学」（1単位）を導入し、授業を開始した。地域の歴史・文化、産業、行政（まちづくり）を学び、故郷への愛着心を高める内容。現状は試行段階で、来年度は2学年にも導入、2026年度以降、1～3年生を通したカリキュラムに拡充する。（能勢雄太郎）

高校の魅力向上策の一環。町役場、漁協、農協、森林組合、住民有志などで構成する講師選定委員会が授業内容を点検・総括し、講師の調整を担う。

初年度は3年生（29人）のみが対象で、1次産業をテーマにした30時間。農業（4～5月）、漁業（6～9月）、林業（10～12月）の現場を視察し、基幹産業の現状と課題について認識を深める。12月中旬に総括として、1次産業を活用したまちづくりを考える。

20日には紋別20線の小田治義さん（55）の牧場を訪問。約30年前に移住し就農した小田さんは「広尾は新規就農者の受け入れに熱心」「酪農に限らず、しっかり目標を立てることが肝心」と呼び掛けた。

小田さんは「生徒には地域についていろいろと学び、将来、まちづくりに取り組んでもらえたら。（地域学は）高校の特色として定着してほしい」と述べていた。

広尾高校を巡っては、生徒数の減少に伴い今年度の募集枠が1学級に縮小。地域学は生徒数の確保に向けた“切り札”に位置付けており、全国募集（3年間のカリキュラム化で可能になる）も視野に入れる。同校は「地域との連携をさらに強めることで、高校の存在意義を高めたい」としている。